

刀剣・武士の装いツアー WEB 新聞

発行：東京国立博物館ボランティア 刀剣・武士の装いツアーグループ 2022年3月

私たちは東京国立博物館(トーハク)で、刀剣・鎧兜^{よろいかぶと}を中心にガイドしているグループです。この新聞では初心者の方を対象に、刀剣・鎧兜・陣羽織^{じんばおり}について簡単にご紹介します。長い歴史と伝統を受け継いできた刀剣や鎧兜、武士の装いの世界を楽しんでいただければと思います。刀剣・鎧兜の展示室は2か所あります。本館1階13室は刀剣を中心にした展示で、平安時代から江戸時代までの各時代と地域を代表する優れた刀剣、鐺^{つば}などの刀装具^{とうそうぐ}をご覧ください。



本館2階の5室・6室では、戦場で武士の身を守った鎧や兜、歴史上有名な武士の肖像画や書状、刀剣、鞘^{さや}などの刀装、陣羽織、馬具・弓矢といった武器や武具類、そして着用した衣服などを通して、武士の世界に思いをはせることができます。

【刀剣】

日本刀は日本古来の武器ですが、鉄の美しさを極めた「芸術品」でもあり、宝物として大切に受け継がれてきました。現代ではパソコンやスマートフォンのゲームにも取り上げられ、とても人気があります。

日本刀には主に「太刀^{たち}」と「刀^{かたな}」があります。

太刀は、騎馬戦が中心だった平安時代後期から室町時代にかけて主に使われ、刃を下にして腰帯から紐で吊り下げて装着しました。

刀は、合戦の方法が騎馬戦から徒歩集団戦へと変化したことに伴い、室町時代後期から江戸時代にかけて使われ、刃を上にして腰帯に差し込んで装着しました。トーハクでは、この違いにならって太刀は刃を下にして、刀は刃を上にして展示しています。



【国宝】
太刀 三条宗近 (名物 三日月宗近)
平安時代・10~12世紀



梅花短冊透鐺
安土桃山時代・16世紀



桜花山鵲図鐺
明治3年(1870年)



稲穂文鐺
江戸時代・18世紀

刀身を納める鞘^{さや}を飾る刀装具も、時代・持ち主の好みを反映して様々な素材と技巧を尽くして作られました。手を守る「鐺^{つば}」も多様で、写真のように梅、桜、稲穂など季節にちなんだ文様を表した作品もたくさんあります。トーハクでは季節毎に展示替えをしており、華やかなデザインが楽しめます。ぜひトーハクで、本物をご覧ください。

*展示替えのため展示されていない作品もあります。

*展示替えのため展示されていない作品もあります。

【鎧】

日本の鎧は武士の身を守る武具ですが、丈夫さや使いやすさだけでなく、戦場で活躍をアピールするために力強い美しさや目立つことも求められました。

鎧は、戦い方の変化と武器の進化の影響を受けて、馬に乗った戦いに適した重い「大鎧」から、徒歩集団戦に合わせてより動きやすい「胴丸」・「腹巻」、そして鉄砲伝来後は防御性を向上させた「当世具足」へと変遷していきます。

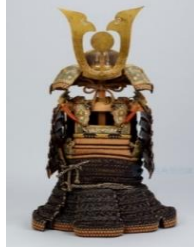
写真はトーハクに所蔵されている代表4種類の鎧です。

大鎧



模造 赤系威鎧
昭和12年(1937年)
[原品:平安時代・12世紀]

胴丸



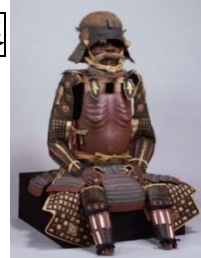
[重要文化財]
梶鳥糸肩赤威胴丸
室町時代・15世紀

腹巻



熏章包腹巻
南北朝～室町時代
・14～15世紀

当世具足



仁王胴具足
安土桃山～江戸時代
・16～17世紀

【兜】

「兜」というとどのような物を思い浮かべますか？

五月人形に見られるような大きな金色の飾りを付けたカッコイイ物？

「兜」は、頭部を守る防具です。時代の変遷と共に、武将達の威厳を表現したり、個性を主張したりする役割も担うため意匠にも反映され、機能面においても改良が続けられ防具としても進化しました。



紫裾濃威筋兜
江戸時代・18世紀

トーハクには沢山の変わった「兜」がありますよ。

例えばこちら。尖った飾りが遠くからでもよく目立ちそう。

それにとっても重いかも。

かぶったら首が痛くなるかもしれませんね。

こんな形の「兜」もあります。

毛むくじらのデザイン。誰が思いついたのでしょね。

今迄見たことのない「兜」に出会えるかもしれません。

是非トーハクに「兜」を見に来て下さいね。



一の谷馬蘭兜
安土桃山～江戸時代
・16～17世紀



茶系威野郎頭形兜
江戸時代・17世紀

【陣羽織】

「陣羽織」は戦場で武将が鎧の上から羽織るものです。雨や寒さを凌ぐだけでなく、ファッションとしても発達しました。華やかな陣羽織は武将が自らの財力、カリスマ性を示す戦場での舞台衣装なのです。

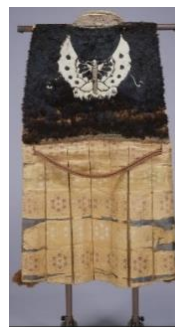
写真をご覧ください。

こんなにオシャレな陣羽織もあります。

写真左は織田信長が家臣の溝口家に与えたものと伝えられ、家紋である揚羽蝶の模様を山鳥の羽で大胆にあらわしています。

写真右は小早川秀秋所用と伝えられており、大鎌をあしらっています。

トーハクには戦国武将の個性が溢れた「陣羽織」があります。ちょっと羽織ってみたいですね。



陣羽織 黒鳥毛揚羽蝶模様
安土桃山時代・16世紀



[重要文化財]
陣羽織 猩々緋羅紗地違鎌模様
安土桃山時代・16世紀